

職員各位

特定非営利活動法人にじのこ
デイサービスにじのこ給田

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表アンケート結果のお知らせ

日頃より、当法人の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、先日ご協力頂きましたアンケートの集計結果をご報告致します。改善点も含め、支援の質の向上と支援内容の適正化を図るための努力をしておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	課題や、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	13			・身体の高い利用者が多い日や不穏になった利用者がある日、ソーシャルディスタンスの確保という観点からももう少し広い場所があるとよいと感じる面もあるが、庭やベランダも活用しながら乗り切っている。
	②	職員の配置数は適切であるか	12	1		・人数はいても活発に動くマンツーマン対応が必要な利用者を年齢層が高い職員が対応することが体力的な面で厳しくなっている現状がある。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	12	1		・トイレはバリアフリー化されており、玄関の所は車椅子で入りやすいように緩やかなスロープになっている。区の設定で直接改修が難しい面もあるため暑さ対策で日除けのテント等を購入して対応した。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	12	1		・日々のミーティング等で職員からの意見を聞くようにしており、活動の中で職員から出てきた意見を踏まえながら常勤職員が中心となって目標を設定し、半年に一回程度見直しを行いながら業務改善に努めている。 ・「業務改善」がどの範囲なのかよく分からない。にじのこ単一で改善できない内容についてはどうすればいいのかも不明。 ・ヘルパーに出たり振り返りに参加できない職員がいるが、活動前に様子等の申し送りがある。

	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	12	1		・毎年の自己評価のアンケートや面談時等に出てきた保護者等の意向を踏まえて目標設定を行い、改善を図ろうとしている。利用希望に関してはコロナ禍でもあるため意向に応じるのが難しい面もあったが、個々の状況を見てその都度対応した。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	12	1		・毎年3月後半にはホームページ上にて結果を公表し、保護者にも周知している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	11	1		・毎年ではないが2018年度に第三者評価を行い、それに基づいてマニュアルの整備等を行ってきた。BCP(事業継続計画)に関しては準備中である。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	13			・コロナ禍の為オンライン上での研修が主ではあるが法人全体だけでなく個々に合う研修を随時受講している。ケア会議という枠組みで居場所について考える機会を昨年度から引き続き設けた。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	13			・普段の様子を見る中で学校や他事業所での目標を参照しながら利用者の課題をとらえ、個別支援計画を作成している。一方で利用者の強みに注目し、それを活かしていくという視点も忘れないようにしている。 ・支援計画を丁寧に更新し全員に打ち合わせで伝える。 ・常勤職員が行っている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	8	2	2	・知能検査までは至らないが発達段階の区分等、必要に応じて参照する場合もある。 ・標準化されたアセスメントツールが何なのか知らない。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	12		1	・立案は個々であるが、日々の活動やミーティング等の中で適宜話し合いながら全体としてテーマ性を持たせたり、足りない部分を補ったりしながら全体としてチームで行っている。 ・非常勤にも任されている。 ・職員配置によるところが大きく、チームとしては難しいと思う。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	13			・わかりやすさという点で意図的に固定化する内容もあるが、アプローチを変えたり、子どもたちの興味を反映させたり季節の内容を取り入れたりしながら変化が生じるように努めている。 ・非常勤にも任されている。 ・経験のある複数の職員がプログラムを企画してい

					て固定化しない様になっている。
⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	11	1		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は在籍メンバーの進学に伴い、放課後のプログラムについてはリラックスすることを優先して無理のない形で進めてきた。時間のある日にはダイナミックな内容を取り入れられたり、手持無沙汰にならないよう複数の内容を取り入れたりしている。
⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	13			<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの要望としても集団の場であることを大切にしてほしいということがあるため集団活動を主にしつつ、その中で一人一人に応じた個別課題を組み合わせるようにしてきた。(＜例＞ 宅配ごっこにおける数の理解、挨拶、報告、注文書の記入等) ・「適宜組み合わせ」のモデルがあるなら知りたい。
⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	13			<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの途中に利用者と一緒に来所した職員に対しては時間帯的に難しい面があったが、開始前にはミーティングの時間を設定し、直近の子どもの様子や個別支援計画の内容について確認している。 ・ヘルパー兼務の職員も多いため記録を先に書いてもらったり、後で来る職員には個別に打ち合わせの内容を伝えている。
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	13			<ul style="list-style-type: none"> ・終了後に参加できる職員とは振り返りを行い、気付いた点を共有している。必要と思われる内容は連絡票等に記入したり別日のミーティングに反映させたりすることで、ヘルパーで参加できない職員には伝えている。 ・ヘルパー兼務の職員も多いため記録を先に書いてもらったり、後で来る職員には個別に打ち合わせの内容を伝えている。
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	12	1		<ul style="list-style-type: none"> ・ケア会議等で記録の書き方については指導を行ってはきたが、個別支援計画に基づいてどんな支援を行ったかの記載が抜けたりと補足が必要な面がある。意見が出た内容を記録として残せるよう、引き続き記録の書き方についての研修やケア会議を実施する必要を感じる。 ・「書き方」について毎年伝えたり全体で学習の時間を設けている。

	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等サービス計画の見直しの必要性を判断しているか	10	1		・概ね6カ月に1回は個別面談を行い、個別支援計画の見直しを行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	11	1		・適宜ガイドラインを参照しながら求められている内容を考慮して支援を行うように努めている。
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	12			・コロナ禍のため直近に参加する機会はなかったが、サービス担当者会議が開催される場合は窓口として施設長が参加している。(担当者会議ではないが当法人の相談支援事業を利用している場合は一緒に面談を行い状況共有に努めている。)
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	13			・保護者経由で学校行事表を受け取り一部の学校からは健康観察表の確認を依頼される等、必要に応じて学校と直接連絡を取っている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	7	2	3	・設備面や職員体制、利用者の状況の兼ね合いにより医療的ケア児の受け入れは難しい状況である。・現在受け入れをしていない。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	11	1		・幼児グループにこの利用者に関しては保護者の同意を得て個別支援計画等の情報共有を行い、スムーズな受け入れに努めている。就学支援シートを通して他事業所や保育所、幼稚園での様子が提供されている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等サービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	10	2		・直近では依頼がないが過去に依頼が保護者を通じてあり、個別支援計画のコピーを卒業後に通う事業所に提供したことはある。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	11			・コロナ禍の為直近では機会がなかったが区からの案内があった場合は積極的に依頼しST、OT、心理の巡回訪問を受け入れ助言を得た。区の福祉人材育成研修センターから情報提供を受け、研修を受講したことがある。・コロナの為なし。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	3	6	・インクルージョンの観点では望ましいことではあるが、コロナ禍に加え自己評価表のアンケートでは保護者の方から望んでいないという声もあり、積極的に行っていない現状がある。・コロナの為なし。・コロナ禍でできない状

					況にある。
	⑳ (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	10	2		・法人から世田谷区の本会と烏山地域の自立支援協議会に参加し、職員会議等にて情報を共有している。・常勤職員が行っている。
	㉑ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	13			・面談時や送迎時等に適宜子どもたちの様子について伝えるようにしている。伝え方には配慮し、対面が難しい場合は電話や連絡帳等を通して伝え連携に努めている。
	㉒ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	7	2		・保護者から相談のあった時にペアレント・プログラムの考え方を支援の一環として取り入れたことがあった。 ・ペアレント・トレーニングの研修期間が長すぎるので行政に期待する。
保護者への説明責任等	㉓ 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	12			・支援の内容に関しては面談時に確認を行い契約時や重要事項等の変更時には書面だけでなく必要に応じ説明をして確認を行っている。・常勤職員が行っている。
	㉔ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	13			・面談時や送迎時等対面の機会があった時に限らず、電話や連絡帳等で相談があった場合は話を聞き、一緒に考えていこうという姿勢を示している。移動支援中の座り込みに対して写真カードの提示を提案する等、他事業所に対しても協力をしてきた。 ・常勤職員が行っている。
	㉕ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	6	5		・自己評価表のアンケートでは保護者会に関しては積極的でない意見が見られている。コロナ禍ということもあり、積極的に直近では設けていないがこれまではバザーやコンサートの物品準備等でゆるやかに交流する機会を設けてきた。・一人の利用者が複数の事業所を利用している現状で「保護者の連携」を求めるのは難しいのでは？・コロナ禍では難しい。
	㉖ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	13			・苦情があった場合は窓口を統一するようにしている。苦情につながると思われる内容があった場合は保護者と一緒に考え信頼関係を築ききっかけとなるように丁寧に対応するよう常に努めている。・常勤職員が行っている。

	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	13			・毎月にじのこだよりを発行し、活動の様子や行事予定に関しては保護者に周知し、個人情報に配慮した形でホームページにも掲載している。活動の中でじのこ新聞を作り施設内に掲示し、活動内容を子どもたちが視覚的に確認できるようにしている。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	13			・個人情報提供に関する同意書を取っており、広報に関してはそれに基づいて対応している。・繰り返し職員に周知している。 ・法人全体で個人情報の取扱いについての研修を実施している。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	12			・絵カードや写真を活用する等、視覚的なツールを用いて支援している。保護者との連絡は、連絡帳やメール・電話等で密に行っている。口頭で伝える必要がある場合は周りに配慮しながら伝えている。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	6	3	1	・コロナ禍の為、今年度は法人としてのバザーを実施していないが感染状況を見ながら形を変えて実施することを検討している。交流の一つの方法としてホームページ上に普段の様子を公開するようにしている。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	13			・緊急時対応マニュアルに関しては新年度書類と共に渡している。感染症対応マニュアルに関してはコロナの状況により対応の変化があった場合、随時配布しホームページにも掲載して周知している。防犯マニュアルの不審者対応に関して整備を行った。 ・ファイリングし、いつでも確認できる。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	13			・基本的に毎月避難訓練を行い、火災、地震、不審者対応等様々なケースを想定している。・様々なシチュエーションで実施。 ・毎月避難訓練を行っている。物資の確認も行っている。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	13			・法人全体で毎年1回は虐待防止、権利擁護の研修を行っている。日々の振り返りの中で対応について確認し虐待に至らないように注意している。・繰り返し研修する。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	13			・身体拘束に関する規定は法人として設けており、法人全体の虐待防止委員会で確認している。車いす利用者に関しては保護者の同意の下で一時的にベルトを利用して

				おり個別支援計画や個別記録にも記載している。
④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	13		・保護者経由で医師の指示書に基づいた対応を確認している。アレルギーのある利用者の関しては定期的に情報を保護者に確認している。・アレルギー対応表が掲示してある。・常勤職員が行っている。
④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	13		・ヒヤリハット事例に関してはその都度連絡票で周知し3カ月に1回分析したものを改めて提示し周知している。合同職員会議で知った他事業所のヒヤリハットで本事業所に関連する内容についても周知している。・記録を全員が目を通すようにしている。・毎回出勤時に確認している。

*職員13名中13名提出（項目により無回答あり）

事業所向け自己評価表の集計結果

以上の結果を踏まえて、職員内で今後の支援の改善が必要だと思われる項目について話し合いました。

チェック項目	対応できている（工夫している）点	改善点、その他
④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	④ 年度初めの職員会議でデイの目標とPDCAサイクルについて説明したが、うまく伝わっていなかった様子。	PDCAサイクルを取り入れた業務改善の仕方や、記録についての基本的な考え方、ペアレント・トレーニングの取り組み方などを研修に取り入れて意識やスキルの向上を目指していく。
⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	⑰ 記録の書き方についてはこれまでもケア会議や日々の振り返りの時間に伝えてきたが、なかなか改善に繋がらない面も見られる。	
⑳ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	⑳ ペアレント・トレーニングの考え方（応用行動分析等）を取り入れた支援を行い、保護者にも支援方法を伝える場面はあるが、実際に保護者に対して行うことは現状では時間の関係やスキル・取り組み方の構築ができていないので難しい。	

前回のアンケートにおける改善点の結果

2020 年度の課題	2021 年度の改善点、その他	2021 年度の結果
⑫ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	にじのこは幼児から成人の利用者がいるので縦の交流がもっと活性化されるとよいと考えている。	コロナの感染防止のため、保護者の連携を支援する場を設定することができなかった。デイを通しての情報共有や、できる範囲でのイベントや成人余暇活動等、今後検討していく。
⑬ 活動内容が固定化しないよう工夫しているか	今後もよりいっそう、専門性を取り入れた内容を盛り込みつつ、頑張らせすぎずに楽しめるプログラムを考えていきたいと考えている。	今年度は非常勤職員のプログラムリーダーの集団遊びを多く取り入れたことで、ルールを守りながら楽しく遊ぶ機会を増やすことができ、利用者の社会性の発達を全体的に伸ばすことができた。
⑭ 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	特別支援学級との連携に関しては、担任と話をする機会がなかなか持てず、今後の課題となっている。	コロナの感染防止のため、学校公開もなくなり積極的な交流が難しかった。後半はリモートでの学校公開の案内も見られ、各機関の連携に向けた取り組みが発信されているので、活用していく。
⑮ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	職員、非常勤ともにガイドラインの内容を周知し、話し合いながらさらに自立に向けた環境づくりと自己肯定感を育むことができる支援を組み立てていく。	年度初めの職員会議でガイドラインや放課後等デイサービスの仕組みについて説明をした。

これらの結果を踏まえて、今後の支援の目標を、「オンライン研修等を利用して、支援のスキル向上を目指し、現場に反映させていく」としました。